

## 第8回 ヘルスケアイノベーションコース オフィシャルミーティング

「創造的な思考を育成」 開催報告

開催日時：2025年2月1日（土）13:00～16:40（受付 12:30～）

開催場所：高知大学医学部 実習棟3階第二講義室

開催形式：ハイブリッド形式（参集+オンライン同期型+期間限定見逃配信）

参加費：無料

主催：高知大学医学部 連繋医工学分野

参加数：24名（参集:12、オンライン同期型:7、期間限定見逃配信:5）

### 開催概要

令和7年度2回目のヘルスケアオフィシャルミーティングとして今回は、開催テーマを「創造的な思考を育成」と題して高知大学医学部にて開催した。

まず、Theme lecturesとして、医療学講座連携医工学分野の宮田教授より「Nature 調査に基づく博士課程学生の Well-Being 向上戦略—多角的なアプローチを考える—」と題して講演いただいた。

博士課程学生にとってのウェルビーイングとは、「研究・メンタル・キャリア」の3つの要素のバランスが取れた持続可能な状態であるが、Natureの2019年調査では、メンタルヘルス、いじめ、ハラスメント等に関する質問が初めて盛り込まれストレス要因と負のスパイラルの可視化がされた。このNature調査について回答者の7割強は博士課程進学について満足と答えているが、一方で回答者の3割強が不安やうつ病で助けを求めたことがあるとの報告もあった。ワークライフバランス、差別、ハラスメントなど、ストレス要因と3つの視点（個人・大学・社会）との関連を整理することで、包括的なアプローチが可能になると考えられる。

博士課程学生のウェルビーイング向上のためには、「研究・メンタル・キャリア」の3つの要素のバランスが取れた持続可能な状態であり、博士課程学生が安心して研究に取り組める制度の構築、社会での活用促進、持続可能な研究環境の整備等、現状と課題の理解から、3つの視点（個人・大学・社会）による多角的アプローチが不可欠であるとのことであった。

次の学生セッションでは、ヘルスケアイノベーションコース令和6年度生（4期生）と、令和6年度履修証明プログラム生の講演が行われた。

中外製薬株式会社の島津敏喜様より「ヘルスケアイノベーションコースから学ぶ 多角的視点」と題した講演をいただいた。まずDXを含めた製薬企業による地域医療貢献について述べられ、本コースでどのようなことを学んだかについて説明があり、修士課程では「AI問診・診断システム（Ubie）の活用と受診行動の関連性」「医療機関受診者と非受診者の特性分析」を研究課題とし、現在取り組んでいるとの発表があった。

次に、JA 茨城県厚生連総合病院土浦協同病院 李 彩聖様より「ヘルスケアイノベーションコースから学ぶ 知識を繋ぐ力」と題した講演をいただいた。まず履修証明プログラムを受講した経緯を述べた。同コースの科目を受講したことでさまざまな思考方法や多角的な視野で物事を捉えることを学び、これまでとは異なる視点から研究を振り返ることができたと感じている、との発表であった。また、次年度は令和7年度生（5期生）として同コースを受験予定である。

最後に特別講演として、株式会社リジット代表取締役 山本 修司様より「AIが開く最先端医療 定量化から始まる Personalized Medicine」と題した講演をいただいた。AI技術が医療分野に与える革新的な影響として、定量化が個別化医療に果たす役割について述べられた。医用画像を定量化する Radiomics 手法を中心に、腫瘍の形状、テクスチャ、分布特性などの特徴量を数値化することで、個別化医療を実現する鍵となる。また、最新の臨床応用例を含め、Radiomicsを含むAI技術がどのように患者個々の特性に応じた治療を可能にするかを述べられた。Radiomicsは、従来の目視に依存した診断を超え、膨大な画像データから診断・予後予測や治療効

果を高精度で予測するツールとして注目されている。さらに、AIによる自動化・高次元データ解析が、治療方針の最適化や新薬開発における意思決定を革新しつつある。医療の精度向上と患者ケアの変革が進む中、AIの可能性は無限であり、新たな医療の幕開けが期待される。なお、この講演は特別研究ゼミナール（DCセミナー）としても開催された。



高知大学医学部 医療学講座連繋医工学分野  
宮田 剛 特任教授



JA 茨城県厚生連総合病院土浦協同病院 李 彩聖 様



中外製薬株式会社 島津 敏喜 様



株式会社リジット代表取締役 山本 修司 様